



第 131 号

発行 者  
東筑摩塩尻教育会  
編 集 者  
会誌会報委員会

## すぐれた教師になるためには、 どのようなすればよいのでしょうか

東筑摩塩尻教育会長 西村 政和



教師であれば誰でも「よい授業をした」と願う。どのようにすれば教師としての専門的な力を身につけることができるのでしょうか。

今の教科書は必要最小限のことしか書かれていない。したがって、教師は「生きた教科書」として、文化・科学・社会への理解を深めておく必要がある。すぐれた教師は教育書だけでなく、さまざま

な分野にも関心が向いている。これが教師自身の教養となつて、人間としての幅広い知識、豊かなものの見方・考え方を形成していく。

斎藤喜博先生は、授業者としての力の前に、教養や経験の蓄積によって生じる人間的な力の必要性を説いている。何よりも教師自身が知的かつ魅力的な人間でなければならぬのである。毎日、子どもたちと接して教育活動を行っている以上、教師はコミュニケーションの熟達者でなくてはならない。授業で教師の「発問・指示・説明・板書」などは明確でわかりやすいものでなくてはならない。また、子どもたちの発言を聞き取り、意見をつなげたり、まとめたりすることが適切にできなければならない。

大村はま先生は、話し方の修業のために、話し言葉の本を多く読んだり、自分の授業の録音を聞いたり、社説の朗読を続けたり、よい講演を聞いて耳を養ったりしたという。

佐藤学先生は、教師たちが日頃から授業を公開し、学び合う同僚性の関係をつくるのが重要だと述べている。研究授業も一年間に一人最低五回は行うべきだという。

確かに、自己流で授業をしていたら進歩や変革はない。他者からのコメントを受けることで、気づかなかつたことがわかってくる。他の教師の授業を見ることがさまざまな知見が得られる。こうした授業研究によって、授業を改善するための情報を得ること、さらに実践力量を形成することが重要である。

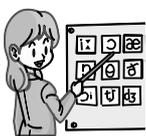
そのためには「本当に自分の授業の腕をみがきたい」「少しでも授業者として成長したい」という強烈な願いをもってやる必要がある。校内で授業を見せ合うだけでなく、外部の研究会に出かけて自分を高めるということも必要になる。自主的に郡内で活動している教科等研究会や県外の教育研究会に参加することは、身銭を切ることで「少しでも授業の腕をみがきたい」という意気込みに変わる。その場合、一つの研究会だけでなく、できればさまざまな研究会に参加し、

そこから自分なりの授業スタイルを形成していくことが重要である。つまり、一つの授業スタイルに固定化することを避けるのである。授業に、絶対の方法はありえない。いつでもどこでも同じようなパターンで授業をすることは有害である。さまざまなものから、幅広く学んで、よいところを摂取していくという姿勢がよい。長所だけを取り入れて自分なりの授業スタイルをつくっていくのである。

また、研究会の参加だけでなく、教育書、教育雑誌や、さまざまな専門情報誌を読み、理論的・実践的な研究成果から幅広く学ぶことによって、自分に合った授業スタイルをつくっていくことが望ましい。

教師修業の道に終わりはない。「これで十分だ」と自分の授業に満足してしまうと、思わぬ停滞を生むことになる。絶えず高いところに目標を設定して、自ら学び続けることが最も重要である。自分の身のまわりに「話し方」の上手な教師がいたら、その技を盗んで自分のものにするというようにして、さまざまなものから学んで最終的に自分なりのスタイルをつくっていくようにしたい。

(桔梗小学校)



# 特集 ◆令和元年度 東筑摩塩尻教育会総集会

令和元年五月十八日(土) 塩尻市レザンホール

## 会員発表

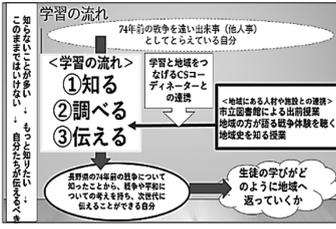
### 「知らない自分」から 「伝える自分」へ ～市立図書館や地域のひととの連携 によって学ぶ「戦争とは、平和とは」～

宮澤 有希

教育会総集会において、昨年度担任した生徒たちの学びの様子を発表する機会をいただき、ありがとうございます。

会員発表では、七十四年前の戦争と身近な地域の関係を知らず、他人事であると感じていた生徒たちが、その姿ではないことを自覚し、語り継ぐ世代として伝えていこうとする姿へ変化していった様子をお話ししました。その変化の裏には、市立図書館や戦争体験を語ったり、地域史を教えたりしてくださった地域の方々、その方たちと生徒を繋いでくれた

生徒の実態 (アンケートより)	在籍35名
今までに教科以外で74年前の戦争のことを学んできた実態がある生徒	12人
戦争体験の話聞いたことがない生徒	25人
身近に戦争を体験した人がある生徒	9人
折り鶴が平和の象徴である理由を知っている生徒	1人



CSコーディネーターの支えがありました。この学習を生徒たちと考えていきたいと思っただけは、「なぜ広島に折り鶴が集まるのか知らない」という生徒たちと、「広島と満州は関係があるらしい」という校長先生の一言でした。意味もわからずに、他人事だと思いつつ折り鶴を折るわけにはいかないことに加え、広島と満州のつながりとは何なのか気になったことから「戦争と平和について」学級総会で扱ってみようと思いました。

生徒にアンケートをとると、本当に戦争を知らない世代であることが浮き彫りになりました。戦争を歴史上の出来事としてしか捉えられないままではいけないと思いました。

ただ、「戦争や平和」を中途半端に扱うことはできません。最後に行き着く生徒の姿が「やっぱり戦争って悲惨だよ」という、生徒たちが十分にわかっていることを再度認識し、結局他人事で終わってしまうだけの時間にはしたくありませんでした。他人事にしないために、戦争と平和を自分に引き寄せて考えることが必要ですが、どのように学習を組み立てれば実現できるのかも悩みました。生徒にとって、自分が無関係でないことを実感するには「身近な地域も戦争と関わりがあった」ことを知ることが一番ではないかと考えました。

そこで、まず丘中学校区にある戦争に関するものは何か調べるために学校図書



館司書に紹介してもらった「松本・塩尻の昭和史」に載っていたのが、「桔梗ヶ原女子拓務訓練所」でした。実際に現地に行ってみると、住宅地の中に看板があるだけでした。教科書に出てくる「大陸の花嫁」を育成した施設が学区にあったことが、戦争と平和についての学習を身近な地域に引き寄せて考えることを可能にするのではないかと感じ、このことと、これから折ろうとしている折り鶴の意味を「知る」ところから生徒たちと考えることにしました。

また、戦争体験を聴くことを絶対に実現したいという願いもありました。それも、身近な地域で生活している方から語ってもらいたいと考えたため、CSコーディネーターに人材捜しをしてもらいました。折り鶴の意味や、あまりにも戦争のことを知らない自分を知るという「知る」段階でも、桔梗ヶ原女子拓務訓練所を始めたとした身近な地域と関連する戦争のことを「調べる」段階においても、学校図書館司書にとっても助けられました。

「調べる」活動をしていく際、今までの生徒たちの調べ方は、書かれているこ

とをそのまま書き写すという作業で終わっていました。この学習で同じようにやっても意味がないと感じたため、市立図書館に調べ方を教えてもらう出前授業と、資料の準備をお願いしました。その連絡調整は学校図書館司書にやってもらいました。

折り鶴の意味を読み聞かせによって知り、そのお話を知らずに日本の多くの人が鶴を折っている現状を、生徒は自分と重ね、「戦争を他人事だと思っていた自分たちではないけない」「もっと知りたい」という想いを強く持つようになっていきました。

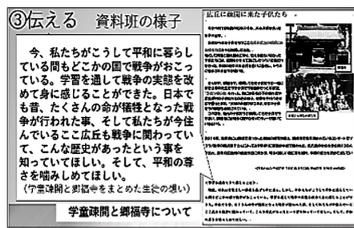
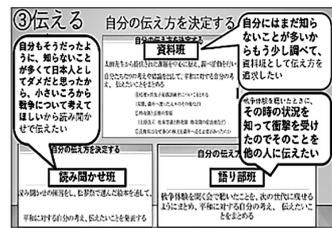
そのような生徒の意識に対して、市立図書館には多くの資料を調べやすく準備してもらいました。生徒たちは「何を知らりたいのか」をはっきりさせた上で、その答えを見つけるために資料を探し、読み、端的にまとめていく姿が見られました。調べたことを自分なりにまとめ直していく中で、生徒が一番引きつけられたことは、「桔梗ヶ原女子拓務訓練所」でした。戦争に関するものがすぐ近くにあったという事実が生徒たちにとって大きな驚きでした。ましてや、それが教科書に出てくる言葉と関連しているかもしれないということ、見過ごすわけにはいかなくなりました。

このことを実際に地域の人から教わるために、地域史に詳しい方をCSコーディネーターや保護者に探してもらいました。そして実現したのが地域史の出前授業です。そこから、「自分の地元のこと」は自分で話せるようになりたい」という地域に自分を寄せて考えようとする生徒

この姿も見られました。この学習の中で私が最も実現したいと思っていたことは、戦争体験を聴くことです。文字や写真から戦争を知ることが簡単です。でも、七十四年前のことがずっと昔の出来事ではないということを生徒に自覚させるためには、目の前にそれを体験した人がいて、その事実を語ってもらうことが必要だと思いました。そのため、この会を実現させるために三名の方をCSコーディネーターと市立図書館に探してもらいました。



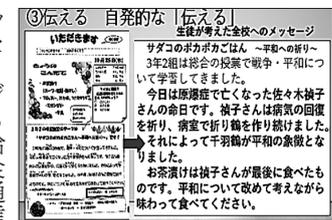
この会のためにもう一度当時のことを思い出して準備をしてくださった方や、全身を使って力強く生徒に戦争を繰り返さないでほしいと訴える方の言葉や姿から、戦争は文字や写真からはわからないほどの苦しさや怖さがあるものだったということ、現実にあったことだということ、それを改めて感じ取っていました。そして、「伝え残す必要があることに自分たちは取り組んでいる」という自覚をもてた時間になりました。その後、生徒自身が、何をどうやって伝えていくか考え、学級を三つの班に分けることになりました。絵本の読み聞かせ



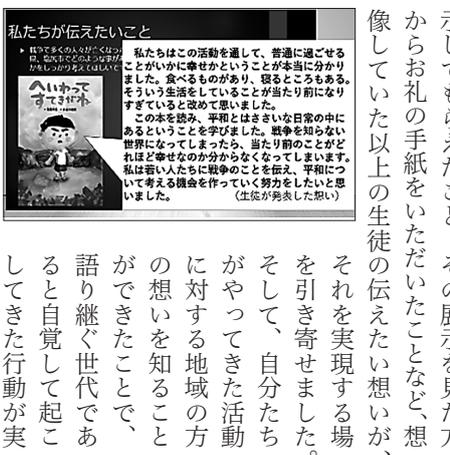
授業を生かしながら資料を作成しました。また、語り部班では、手に取る形で語りを読んでほしいという想いからパンフレットのようにまとめようとする姿もありました。伝えたいことを伝える場として文化祭での発表と展示を一つの目標としてやってきました。しかし、ここまで学習してきた生徒たちは、設定された時間だけでなく日常生活の中でも、自分たちでできる形で伝えていきたいという、自発的な行動を起こしていきました。それが、佐々木禎子さんが亡くなった十月に合わせたリクエスト給食の「お茶漬け」でした。今まで学習してきたことから、全校へ伝えたいメ

を通して伝えていきたいという読み聞かせ班、もって調べて知ったことを伝えたいという資料班、戦争体験を語り継ぎたいという語り部班です。読み聞かせ班では、読み聞かせボランティアから、読み聞かせ方を教えてもらい、学校図書館司書と共にPOPづくりをして伝えようとしてきました。資料班では、一人ずつ追究するテーマを決め、市立図書館の

読み聞かせ班では、読み聞かせボランティアから、読み聞かせ方を教えてもらい、学校図書館司書と共にPOPづくりをして伝えようとしてきました。資料班では、一人ずつ追究するテーマを決め、市立図書館の



また、作成した資料を市立図書館に展示してもらえたこと、その展示を見た方からお礼の手紙をいただいたことなど、想像していた以上の生徒の伝えたい想いが、それを表現する場を引寄せました。そして、自分たちがやってきた活動に対する地域の想いを知ることができたことで、語り継ぐ世代であるという自覚がもたらされた行動が実現しました。



市立図書館や地域の方の出前授業、戦争体験を聴く会など、地域の方と学校が繋がることで実現した学習を通して、戦争のことを「他人事」で、遠いどこかで起きた出来事だ」と考えていた生徒たちが、物事を自分に引き寄せて自分のこととして考え、知らないことを知ろう、調べようとする力、伝えていこうとする力を学び取ってくれたと感じています。学校と地域を繋いで学習を支えてくれ

たCSコーディネーターの櫻井先生、図書館と連携したいという想いを受け止めてくれた学校図書館司書の塩原先生、「桔梗ヶ原女子拓務訓練所」の授業をしてくださった太田先生、戦争体験を語ってくださった地域の方々、出前授業や資料準備、読み聞かせでお世話になった市立図書館のみなさんに篤く御礼申し上げます。(丘中学校)

### 会員の感想

#### 優しさと勇気の育て方

水谷修氏  
清水 義浩

水谷氏の語る一言一言は、どれも重く魂のこもったものであった。「生徒の居場所へ行くだけ。そこが夜の世界だったということ。昼の世界で居場所を無くした子どもたちが、夜の世界へ自分の居場所を見つけに行くのだ。」夜廻り先生と呼ばれる水谷氏はそう語る。そんな彼が子どもと向かい合う姿勢には強い信念のもと一貫性があるのだ。「子どもの居るところに行かなくては子どもとは語れない。そして、その子の苦しみを感じとることはできない。だから結果的にその子どもの居場所である夜の世界へ行くのは当然のことだ」と言い切る。学校で子どもの登校を待っていることが教育者の仕事ではない。不登校だから関われない、致し方ないではないのだ。そんな情熱溢れる氏に子どもたちは「水谷は不登校にもさせてくれない！」と漏らしたという。こうやって子どもの中に『真剣に

関わってくださる大人」という種を蒔き、徐々に来らせ信頼関係を築いていく。そこには氏の「面倒をみるなら最後まで」という強い信念が垣間見えた。「学校を卒業したら終わり」ではなく、いつでもいつまでも永久的に自分と関わってくださる大人、子どもたちにとってそんな大きな安心感でいてくれたのだろう。きっと救われた子どもたちにとって氏との出会いは、強く深い、我々の想像以上のエネルギーとなつて、生きる原動力につながつたに違いない。

こんな子どもたちが増える現代社会のメカニズムとして水谷氏が警鐘を鳴らす二つのキーワードが心に残つた。

一つ目は「家庭の在り方」。家庭に職場や社会のイライラが入り込み、親はそのイライラを子どもにもぶつけているというのだ。児童虐待は子どもへの直接の暴力だけではない。子どもの前で夫婦げんかを見せることや、他人との比較で心無い一言を浴びせることも、立派な児童虐待である。攻撃的な面の多い現代社会において、そのイライラの矛先は間違ひなく弱者である子どもたちに向けられている。だからこそ、我々大人たちの心の持ちようを変えていくことが肝要だと氏は語る。その方法の一つとして、身の回りにある美しいものに気づき、触れ、心穏やかに、そして豊かに過ごすという、人としての尊厳に満ちた時間を当たり前にもつことの重要性を、笑顔で提言してくれた。

二つ目は「携帯電話をはじめとする SNS の存在」。見えない相手に対して、しなくいい心配をして心を侵される、たちの悪い現代病の存在だ。今後、国家レベルで対策を考えていかなければ、取り返しのつかない事態になりかねないと警鐘を鳴らした。



今回の水谷氏の講演は、子どもを取り巻く環境についての幾多の具体的な事例と共に、我々大人の役割について再確認すべきことに一石を投じてくれたのではないだろうか。(朝日小学校)

「今日、美しいものを見た人」という質問に私は戸惑いました。「何かを美しいと感じたのだろうか……」と自問自答している間に大勢の人が手を挙げていました。日頃から天気が良ければワクワクして、花が咲いていけば興味をもつていた私ですが、最初の質問をされたとき、そのことをすぐに思い出せませんでした。いつの間にか余裕がなくなつてきたのかもしれない。

水谷先生のお話は「夜の世界」の話でした。どの話でもドラマで見えるような内容ばかりでした。私は中高生でも、そのような世界があることに驚きました。最後のアイさんのお話も劣等感から夜の世界で生きるようになったということでした。アイさんが夜の世界で生きるようになった発端は屋の世界にあったのです。私は先生の「最近屋の世界が夜の世界に侵蝕されている」というお言葉が胸に刺さりました。確かに日常に目を向けると、昼でもイライラしている人や攻撃性が強い人を目にすることがあります。先生のお言葉と現実を重ね、スマホなどの発達で昼と夜の境界が曖昧になつてきているのだと実感しました。

では、どうすればよいのでしょうか。先生は「美しいものに触れることが大切」とおっしゃっていました。私は現在副担任という立場です。これからクラスを持たせていただける日がきたら、子どもたちが「美しいもの」に触れられる環境づくりをしていきたいと思ひました。子どもたちだけでなく、私自身が「美しいもの」にたくさん触れて心を豊かにし、穏やかに生活していきたいと思ひます。(塩尻西部中学校)

あつという間の一時間半でした。「夜廻り先生」こと、講師の水谷修先生の一つ一つの言葉や立ち姿、存在そのものがとても力強く、物凄いパワーを感じました。それは、水谷先生が会場つてきた子どもたち、経験してきたことの大きさを残している言葉を三つ挙げたいと思ひます。

一つ目は、「誰がおぎやあと生まれたときに、悪さをしてやろう、人殺しをしてやろう、と思つて生まれてくるんだ。みんな幸せになりたいと思つて希望をもつて生まれてきているんだ」という言葉です。水谷先生が関わつてきた子どもたちも、望んで夜の世界に生きていくわけではなく、みんなと同じように昼の世界で幸せに生きたいけれど、環境や周りの大人たちのせいであるという感じがする。

と知りました。大人や、私たち教師には子どもを守り、育てる責任があります。子どもたちの心の奥深くまで読み取り、寄り添つてあげなければならぬと改めて考えさせられました。

二つ目は、「誰かを幸せにするため、誰かを笑顔にするため生きていく」という言葉です。これは、「生きていく意味が分からない」と相談してくる子に、水谷先生が返している言葉だそうです。実際に東日本大震災を経験したこと、生きる意味を見つけた子の話もしていただきました。人は一人では生きていけないとよく言われますが、生きる意味も、周りに人がいてこそ見つけられるものなのだと思ひました。子どもが生きる意味を見つめるために、教師にできることは、子どもたちを、できるだけ多くの人やことと繋げてあげることだと思ひました。

三つ目は、「健全な肉体にしか健全な精神は宿らない」という言葉です。「学校の授業が終わったら、子どもたちに校庭を三周させて、十分に疲れさせてから帰らせてほしい」と、水谷先生はおっしゃっていました。夜は心が不安定になる時間、その時間に起きていてネットの世界に入つていくから、子どもたちの心は爆発したり、萎んでいつてしまつたりするのだそうです。しっかりと寝ること、心は生きていられる。そのためには、健全な肉体を学校で育てる必要があると思ひました。子どもたちが昼間の世界で太陽を浴びて元気いっぽうに生きていくために、学校で一緒に体を動かすことが、まだまだ教師として未熟な私にもできることだと思ひました。

子どもたちに寄り添い、責任をもつて育てられる教師になりたいと、改めて考えさせられた講演会でした。(広丘小学校)

子どもを育てる責任  
矢崎つづみ

教育会総会に参加して  
鎌倉 悠

「美しいものを見た人」という質問に私は戸惑いました。「何かを美しいと感じたのだろうか……」と自問自答している間に大勢の人が手を挙げていました。日頃から天気が良ければワクワクして、花が咲いていけば興味をもつていた私ですが、最初の質問をされたとき、そのことをすぐに思い出せませんでした。いつの間にか余裕がなくなつてきたのかもしれない。

水谷先生のお話は「夜の世界」の話でした。どの話でもドラマで見えるような内容ばかりでした。私は中高生でも、そのような世界があることに驚きました。最後のアイさんのお話も劣等感から夜の世界で生きるようになったということでした。アイさんが夜の世界で生きるようになった発端は屋の世界にあったのです。私は先生の「最近屋の世界が夜の世界に侵蝕されている」というお言葉が胸に刺さりました。確かに日常に目を向けると、昼でもイライラしている人や攻撃性が強い人を目にすることがあります。先生のお言葉と現実を重ね、スマホなどの発達で昼と夜の境界が曖昧になつてきているのだと実感しました。

では、どうすればよいのでしょうか。先生は「美しいものに触れることが大切」とおっしゃっていました。私は現在副担任という立場です。これからクラスを持たせていただける日がきたら、子どもたちが「美しいもの」に触れられる環境づくりをしていきたいと思ひました。子どもたちだけでなく、私自身が「美しいもの」にたくさん触れて心を豊かにし、穏やかに生活していきたいと思ひます。(塩尻西部中学校)

令和元年度

# 塩筑教育会組織

## 役員

会長(代表理事)	西村 政和(桔梗小)
副会長	林とよ美(洗馬小)
理事	柳生 高広(事務局長)
	高山 雪
	赤津 勝広
監事	小坂 幸恵(書記)
	久保田雅樹(坂井小)
	福山眞太郎
常任委員長	牛山 雅恵(塩尻西小)
副委員長	柳生さよ美(山形小)
常任委員	折橋 善文(宗賀小)
	櫻井 清志(聖南中)
	北野 宏治(生坂小)
	村上 啓(広陵中)
総会	小松 猛(塩尻中)
議長	和美(筑北小)
副議長	召田 和美(筑北小)
小松 秀樹	会津 健市
二宮 聡志	早田 純
小野 拓哉	松井 美香
田中 正幸	大久保法子
齊藤 芳樹	清水 義浩
松村 大	藤原 朱実
鳥海 康	下平 良洋
小松 猛	上條 勝利
山田 淳子	宮下 和久
遠藤 美春	戸谷 千枝
堀田 茂樹	峰田由紀子
	関 健一郎

## 本年度事業計画

### 一 各種研究委員会の推進について

#### 1 各種研究委員会の性格

各種研究委員会は、東筑摩塩尻教育会会の目的である「会員相互の研鑽により、職能向上に努め、以て文化の進展に貢献する」を達成するための大きな柱である。具体的には次の三点を踏まえて進めていく。

- (1) 研究や実践、並びにそれらの情報収集・情報交換を通して、会員相互の人間関係を密にし、職能の向上を図る。
- (2) 塩筑教育の課題を解決するため、できる限り会員の要望に応え、地域に密着した研究活動をする。
- (3) 塩筑教育の進展を期するため、会員やその他の教職員及び地域内児童生徒の教育のために、奉仕的な仕事をする。

### 2 研究主題および委員名

◎世話係 ○委員長

#### 課題追究部

##### 小中連携(塩尻1)

中学校へスムーズに移行できるように学習面、生活面での指導のあり方について、連携を深める。

◎下條寿嗣(片丘小) ○上條水穂(桔梗小)

小野直也(片丘小) 大野幸子(広丘小)

下田真代(吉田小) 林 伸次(丘 中)

白田民幸(広陵中)

##### 小中連携(塩尻2)

中学校へのスムーズな移行のための小中学校での学習指導のあり方について連携を深める。

◎村上公彦(塩尻西小) ○中野哲明(榑川中)

内貴良宏(塩尻東小) 高田齊弘(塩尻西小)

塩原千史(宗賀小) 酒井邦明(洗馬小)

齊藤芳樹(木曾橋小) 横山貴士(両小野中)

小川敦嗣(塩尻中) 島津和浩(塩尻西部中)

##### 小中連携(中央)

中学校への期待を高める小中連携はどうあったらよいか。〜中1ギャップを乗り越えて〜

◎伊藤 茂(朝日小) ○中澤往訓(朝日小)

安江克也(山形小)

##### 小中連携(北部)

プログラミング教育の小中連携

◎福田弘彦(麻績小) ○下平良洋(坂井小)

藤原朱実(生坂小) 召田和美(筑北小)

鳥海 康(麻績小) 山田綾子(生坂中)

堀田茂樹(聖南中) 峰田由紀子(筑北中)

##### 学力検討

東筑摩郡及び塩尻市の児童生徒の学力の実態分析及び学力向上への提案を行う。

◎湯本正芳(丘 中) ○早田 純(桔梗小)

小野織江(塩尻西小) 草間隆志(麻績小)

福島達也(塩尻中) 手塚健介(筑北中)

##### 専門部

道徳の教科化にともない、信濃教育会編道徳資料集の編集・発行が平成三十年度末で終了となった。同資料を使った道徳教育研究協議会が開かれなくなったため、専門部としての道徳教育委員会は、とりあえず休止することとした。

##### 作品展運営部

児童生徒の書写力・鑑賞力を高め、指導者の資質の向上を図るための県展審査及び巡回回道展の企画・運営。

##### 書道展委員会

児童生徒の書写力・鑑賞力を高め、指導者の資質の向上を図るための県展審査及び巡回回道展の企画・運営。

◎細山和寿(塩尻西部中) ○大久保法子(吉田小)

元島智子(山形小) 花岡 萌(生坂小)

岡村まさみ(塩尻中) 笹川美佐子(広陵中)

##### 科学展委員会

科学教育の振興と探究的な児童生徒の育成。

◎小河保宣(塩尻東小) ○杉村諭志(朝日小)

金子和弘(塩尻東小) 宮崎みつ枝(広丘小)

北澤秀憲(吉田小) 駒込恵理(聖南中)

##### 美術展委員会

各校の児童生徒作品の研究を通して、児童生徒の表現に対する「見る眼」を養う。また、巡回展を通して多くの児童生徒が様々な作品と接し、美的感覚を高める。

◎古野房子(榑川中) ○吉江伸一郎(片丘小)

町田恵美(桔梗小) 水野 亮(山形小)

高野菊丸(両小野中) 大西宣晴(生坂中)

##### 読書感想文委員会

児童生徒が読書の楽しさを感じることができるような読書感想文の書き方の指導はどうあったらよいか。

◎折橋善文(宗賀小) ○橘 幸恵(塩尻東小)

武井俊之(広丘小) 百瀬玲子(木曾橋小)

鎌倉 悠(塩尻西部中) 山田綾子(生坂中)

##### 事業部

##### 会誌・会報委員会

教育会会員の教育実践、各校の活動紹介を中心とした親しみやすく読みやすい会誌の発行。

◎米窪治紀(広丘小) ○関澤京子(洗馬小)

小松葉子(塩尻西小) 丸山健二(宗賀小)

山崎理一(山形小) 坂口弥生(筑北小)

高見澤麻衣(広陵中) 神田彩子(榑川中)

##### 資料室委員会

信濃教育「わがふるさと」の教育を支えた人々の原稿完成。

◎吉越秀之(聖南中) ・牛山雅恵(塩尻西小)

○二宮聡志(桔梗小)

中嶋廣多郎(片丘小) 田中正幸(吉田小)

田中和彦(両小野中)

情報ネット委員会

教育会ホームページコンテンツの検討および構築。

◎山下 同(木曾橋川小)◎下平良洋(坂井小) 長谷川智久(洗馬小) 中澤哲也(丘 中)

二 県外視察・自主研究

県外・県内視察研修 募集人数 六名

自主研究 (信濃教育会「教育論文・教育実践賞」)

・東筑摩塩尻教育会からも研究助成金が出ますので、ご応募ください。

三 助成事業

教科等研究会

国 語

◎折橋善文 ○井出宏幸

・夏期研修会への参加

・長野県国語研究協議会への参加

・学会誌「信州国語教育」91号「会報」

81号の発行 ・授業研究会 等

社 会

◎久保田雅樹 ○鳥海 康

・定期総会 ・夏期研修会 ・講演会

・研究の推進 ・実証授業

・信州社会科学教育研究会・塩筑支部としての活動 等

算数・数学

◎小林順一 ○島津和浩

・第68回長野県算数数学教育研究大会への参加 ・中信ブロック大会への参加

・県の研修会への参加 ・松本支会との合同研修会 ・授業研究会 等

理 科

◎北野 宏治 ○小松 猛

・授業研究委員会 ・実験講習委員会

・研修委員会 ・HP運営委員会 等

音 楽

◎松田真理 ○塚原まゆみ

・東筑摩塩尻教育会定期総集会の合唱発表

・実技講習会(合奏法講習会 他)

・授業参観

美 術

◎村上 啓 ○塩原俊郎

・「長野県児童生徒作品展(図工・美術の部)」 「今を生きる子どもの絵展」の審査

・郡展(巡回展) 準備及び作品研究会

・塩尻市図工美術展準備

・長野県美術教育研究大会(安曇大会)への参加

・公開授業、授業研究会等への参加

・松塩筑美術教育研究会会員作品展

・「塩筑教育」のカット作成協力 等

体 育

◎清沢 剛 ○早田 純

・郡研究授業 ・定例学習会

・第60回長野県学校体育研究大会参加

・第61回合宿研究会

・各種大会報告会

・各校の研究授業

技術・家庭

◎小沢 敬也 ○志甫 知紀

・技術・家庭科教育研究大会(県、中信、関東甲信越ブロック)への参加

・研修会の計画と実施 等

英 語

◎勝野雅文 ○宮原 舞

・英語教育研究会(小学校と中学校の英語教育のスムーズな連携について①)

②) 等

道 徳

◎櫻井 清志 ○木村 忠美

・松本市道徳教育研究会夏期研修会参加

・県道徳教育学会飯水大会参加 等

特活(学級作り)

◎古野房子 ○黒澤尚美

・研究会(学級づくり)に役立つ研修講座) 等

哲学(コスモスの会)

◎中原 敏 ○中原 敏

・松本哲学同好会との合同座禅会

・夏期研修(信濃教育会生涯学習講座)

・自主研修会「麻績学舎で教育哲学の講義を聴く」

・松本哲学同好会との合同読み合わせ 等

文化財

◎西村政和 ○一條 学

・臨地研修会 等

(善光寺街道「洗馬宿」(塩尻市)、「青柳宿」(筑北村) 他)

書写書道

◎小澤弘明 ○塩原義郎

・長野県書写書道研究大会への参加

・「塩筑教育」での誌上作品展 等

・長野県書写書道研究大会への参加

・「塩筑教育」での誌上作品展 等

・長野県書写書道研究大会への参加

・「塩筑教育」での誌上作品展 等

学 校 園

◎小林康彦 ○小松秀樹

・果樹・野菜栽培農家、栽培品加工所等の見学 等

保 健

◎福田弘彦 ○手塚美穂

・夏の研修会の開催 ・養護教諭指導者養成研修伝達講習 等

カウンセリング

◎牛山雅恵 ○可知真彦

・研修会(通常学級における支援会議のあり方)、松塩筑合同研修会、夏・冬の研修会への参加

・研究会の開催 等

情 報

◎宮下明浩 ○下平良洋

・研修会(プログラミング学習、ICT機器の活用、情報モラル指導等について)

・講演会やセミナーの紹介・参加 等

総合的な学習の時間・生活科

◎林 とよ美 ○塩川一砂子

・教育課程研究協議会への参加

・研修会 等

・研修会 等

発達障がい支援

◎山田典史 ○島村優子

・講演会 ・事例検討会、教材研究 等

◆◆◆ 編 集 後 記 ◆◆◆

一学期も残りわずかになりました。本年度も会報を通し、会員の皆様の相互理解を深められるような編集を目指してまいりたいと思います。お忙しい中、ご寄稿くださいました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

